



大樹のこころ

家康プロジェクト

自分の夢は「大樹寺小学校を良い学校にしたい」ということです。子供たちや教職員が幸せになり、保護者の皆様から信頼される学校づくりをしていきたいと考えています。そのために「家康プロジェクト」を立ち上げることにしました。このプロジェクトを全校に浸透させるために、5月9日(月)の朝会で家康プロジェクトの概要を子供たちに話しました。

大樹寺小をより良くするために掲げたプロジェクトは「①挨拶」「②トイレのスリッパの整頓」「③机上無一物」の3つです。挨拶では「大きな声で」「相手より先に」「相手の名前をつけて」行うことを伝えました。トイレのスリッパの整頓では、踵からスリッパを脱ぐと上手に揃えられることを話し、この脱ぎ方を「バック駐車」と命名しました。机上無一物は、授業を特別教室や運動場で行う際には、移動する前に自分の教室の机の上に物を置かないようにするというものです。机上無一物ができている教室には、校長が賞賛のメッセージを残していくことを伝えました。

朝会で「家康プロジェクト」について話をしてから、明らかに校内の様子が変わりました。明らかな変化が見られたのがトイレのスリッパの整頓です。どのトイレを見てもきちんと揃うようになってきました。机上無一物も素晴らしい。校内巡視をしていて、空になった教室を覗くと多くのクラスで机上無一物ができています。

そして挨拶。元気の良い挨拶が飛び交っています。特に「校長先生、おはようございます」といった相手の名前をつけて挨拶してくれる子が増えてきました。ある先生が「名前をつけて挨拶してもらえると嬉しいです。自分にだけ特別に挨拶をしてくれた気がします」と言われました。名前をつけて挨拶をする行為は、相手の存在を認めていくことにつながります。

さらに5月11日(水)から3日間、PTAの一家庭一支援による「あいさつ運動」が展開されました。一支援の保護者の皆様が、正門や南門に立って朝の挨拶を行ってくださっていました。保護者が挨拶してくださるので、子供たちもいつも以上に元気になります。朝からとても気持ちがいい。保護者の皆様に感謝です。

このように家康プロジェクトは順調にスタートしました。これらのプロジェクトが、大樹寺小の「当たり前」になっていけば、もっともっと良い学校になると思っています。

いえやす 家康 プロジェクト

